2008年 12月 20日　比較文化史学会
国士舘大学梅ケ丘校舎 34号館 6階 A 607教室

《ハンドアウト》

c-Japanにおける基盤研究としての書誌
——事例研究　シェイクスピア書誌の現状と今後の問題点について——

武蔵野学院大学教授　佐々木隆

おもな内容

今回の発表に至るまでの経緯（シェイクスピア書誌の今後の展望についての考察）　2

e-Japanとは何か　3

c-Japanとは何か　3

情報の電子化と書誌　5

知流社会における「シェイクスピア情報」　6

「日本シェイクスピア書誌」から「日本シェイクスピア情報」へ　9

日本シェイクスピア情報の今後の展望　9

参考資料　電子図書館と日本シェイクスピア書誌に関する年表　26

今回の発表に至るまでの経緯（シェイクスピア書誌の今後の展望についての考察）

・『日本のシェイクスピア』（エルピス、1988年2月）　小津次郎「推薦の言葉」、三神勲「序文」
・『日本シェイクスピア総覧』（エルピス、1990年4月）　石原孝哉「序文」
・「日本のシェイクスピア受容の問題点と展望」（『武蔵野短期大学研究紀要』第5輯、1991年6月）
・『日本シェイクスピア総覧2』（エルピス、1995年4月）　高橋康也「序文」
・『シェイクスピア研究資料集成』（全30巻＋別巻2）（日本図書センター、1997年1月～1998年6月）　高橋康也監修
・「日本シェイクスピア書誌の新しい展望」（『書誌から見た日本シェイクスピア受容研究』博士論文、2001年3月）
・「日本シェイクスピア書誌の問題点」（『書誌から見た日本シェイクスピア受容研究』佐々木隆、2002年4月）
・「情報文化時代における日本シェイクスピア書誌の一考察」（『武蔵野学院大学研究紀要』第3輯、2006年6月）
・「最近の『シェイクスピア事典』の一考察～情報社会のシェイクスピア～」（『異文化の諸相』第28号、日本英語文化学会、2007年12月）
・「ITと文学・言語・教育研究　W.Shakespeareの研究サイト」（『日本英語文化学会会報』第2号、2008年6月）

（1）
21世紀の世界の主な潮流は、「グローバル化」「グローバル・リテラシー（国際対話能力）」「情報技術革命」「科学技術の進化」「少子高齢化」である。

、、、そのためには情報を瞬時に自在に入手し、理解し、意思を明確に表明できる世界へアクセスする能力」「世界と対話できる能力」を備えていなければならない。個人がそうした能力、つまり「グローバル・リテラシー」（国際対話能力）を身につけているかどうかは、彼または彼女が21世紀の世界をよりよく生きるかどうかを決め

るだろう
（「21世紀日本の構想　日本のフロンティアは日本の中にある」（首相官邸。http://www.kantei.go.jp/21century/houkokusyo/1s.html. 2000年1月）

e-Japanとは何か

（2）

e-Japan重点計画概要
1．基本的な方針（1）
1．基本的な方針（2）
2．世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成
3．教育及び学習の振興並びに人材の育成
4．電子商取引等の促進
5．行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用の推進
6．高度情報通信ネットワークの安全性及び信頼性の確保
7．横断的な課題
IT戦略本部「e-Japan重点計画――高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する重点計画」（http://www.kantei.go.jp/jp/it/network/dai3/3siryo40.html）2001年3月29日

c-Japanとは何か

（3）
情報文化の概念が今日有効に見えるのは、20世紀を通じて現代文化が一貫して場所的な定在性を失い、その物質的媒体を無視できるほどに軽量化してきたからである。手紙から新聞、雑誌に至るまでの紙の媒体とした情報文化ならば、情報の移動はモノの移動と対であり、メディアの物質的な次元を無視することはできない。
　ところが電信の登場以降、今日のデジタル技術に至るまで、現代の情報文化はほとんどモノの移動とは無関係に高速かつ地球規模で流通している。
（吉見俊哉「情報文化」（『情報学事典』（弘文堂、2002年6月），pp.472-473.）

（４）
①進化の速度が極めて早いこと
②進化の場所が点在することである。これらの２点は、「これまでの文化にみられない特徴である。その基盤となっているのは、インターネットを代表する情報通信技術の発達に他ならない。したがって、その面を強調すれば、現代の文化は『ネットワーク文化』であるともいえる。
（片方善治監修／情報文化学会編『情報文化学ハンドブック』（森北出版、2001年10月），p.82.）

（５）
21世紀初頭の「e-Japan」戦略の推進により、2006年にブロードバンド回線は2400万世帯。モバイル・インターネットはほぼ一億台、地上デジタル放送は1800万台を超えた。わが国は、世界で類を見ないデジタル基盤を有する国となった。
（曽根原登・東倉洋一・小泉成史『c-Japan宣言』（丸善、2008年3月），p.153.）

（６）
理想の情報化社会の実現には、技術と市場メカニズムとの関係だけにとどまらず、社会や文化との連携が不可欠となる。自由と平等、そして安全に知的情報が流通する社会を知流社会ととらえてみよう。その実現に向けて、技術、市場、社会、文化の連携のあり方について議論し、Cool & Cultureの視点からそれをc-Japanとして宣言することとしたい。
曽根原登・東倉洋一・小泉成史『c-Japan宣言』（丸善、2008年3月），p.154

（７）
c-Japanの「c」は基本的には「格好いい」のcoolで、その国に住みたくなる、そこの製品を買いたくなるという意味も持たせています。これまでのように技術と市場のメカニズムだけではなく、社会的にも文化的にも訴求力のあるものを作っていこうという狙いもあり、cultureという意味も持たせています。この中には創造力

(creativity)や文化との連携・協調(collaboration)も入ってきます。コンテンツ(content)を変えるという意味でのcでもあります。新しいコンテンツの担い手は消費者(consumer)であり、一般市民(citizen)でもあります。さらには、新しい科学の流れを支える最先端学術情報基盤のCSI(Cyber Science Infrastructure)も含んでいます。
曽根原登・東倉洋一・小泉成史『c-Japan宣言』(丸善、2008年3月),p.vi-vii.

(8)
科学や技術に裏打ちされた付加価値の高い情報、コンテンツを発信することにより、その背後にある言語や生活様式などの文化交流を促すことができます。これをわれわれは情報文化力ICP(Information and Culture Power)と呼び、この強化戦略が大交流時代には必要だと考えています。
曽根原登・東倉洋一・小泉成史『c-Japan宣言』(丸善、2008年3月),p.5.

情報の電子化と書誌

(9)
書誌公共事業 bibliographic utility
オンライン書誌データベースを維持し、関心のある利用者には誰でもコンピュータを用いたサポートを提供できるようにしている組織、図書館が直接に、または書誌情報サービス・センターを通して書誌レコードを入手できるように、標準インターフェースを提供する

(10)
「書誌的来歴」
しょしてきらいれき　書誌的来歴　(bibliographic history of item)
一度発表または刊行された著作が，その後形を変え，単行書として，合集（がっしゅう）として，あるいは各種の版として刊行され，あるいは複製されるなど，いろいろ変遷することがある。このような場合の経緯のことを指していう。翻訳・翻案・ダイジェスト，さらには書評等の場合も含んでいうことがあるが，ある特定の図書の所有者の変遷，所蔵上の来歴・伝来のことではない。
日本図書館協会用語委員会編『図書館用語集

三訂版』(社団法人日本図書館協会、2003年11月)、p.148.

知流社会における「シェイクスピア情報」
(11) 1991年の手紙

World Shakespeare Bibliography

Department of English
Texas A&M University
College Station, TX 77843-4227
409-845-3400

Editors:
Harrison T. Meserole
James L. Harner

---

19 September 1991

Takashi Sasaki
Chief Editor, Shakespeare News from Japan
1-30-4, Kitakase
Saiwai-ku, Kawasaki 211
Japan

Dear Mr. Sasaki,

Professor Meserole and I are indeed honored to have such eminent scholars as you and Professor Arai join the International Committee of Correspondents. We look forward to a long and mutually beneficial association.

I want to thank you for the copy of your Complete Catalogue of Shakespeare in Japan, which will find a welcome home in our working library. It is, indeed, an impressive bibliography and one that, I am certain, has been warmly received by Shakespearean scholars in Japan. I certainly urge you to publish this in English also. As you are well aware, too little Japanese scholarship is known in the West.

I also want to commend you on Shakespeare News from Japan, a much-needed survey that will help to introduce Japanese scholarship to a wider audience. We were able to use much of volume 1 for the 1990 World Shakespeare Bibliography, and we look forward to seeing volume 2.

I am sending, by book post, copies of the 1988 and 1989 World Shakespeare Bibliographies. As a member of the International Committee, you will receive a complimentary subscription to Shakespeare Quarterly (including the Bibliography issue).

I am enclosing a copy of my original letter to Professor Arai, since that includes information about our procedures. In addition, I am enclosing some instruction sheets that we provide to new members. However, as I told Professor Arai, we can use information in the form you provide in Shakespeare News from Japan.

Again, we are delighted to welcome such a distinguished bibliographer to the Committee.

Yours sincerely,

James L. Harner

James L. Harner
Editor
World Shakespeare Bibliography

近代デジタルライブラリー

国立国会図書館

国立国会図書館が所蔵する図書のデジタル画像を閲

分類で検索　詳しく検索　ヘルプ

お知らせ

NEW!! 9月29日　国立情報学研究所のWebcat Plusから近代デジタルライブラリーへの連携が開始されました。
詳細はWebcat Plusをご覧ください。

8月29日　お知らせのRSS配信を始めました。

8月26日　**提供数が10万タイトルを超えました。**　⇒追加資料の紹介はこちら

・大正期の資料約4,200タイトル（約5,100冊）を追加しました。追加資料のリストはCSVファイルをご覧くた

・明治期の資料約400タイトル（約600冊）を追加しました。明治期追加資料のリストはCSVファイルをご覧

・今回の追加により近代デジタルライブラリーの提供総数は、約101,400タイトル（約148,200冊）となりま

初めての方へ　よくある質問　資料あれこれ　リンク集　利用上の注意　閲

JuGeMu PLAYER JPEG2000の画像を見るためにはプラグイン（JuGeMuPlayer ver4.5）をインストールしてください。

Get Adobe Reader Adobe Readerのダウンロードは左のアイコンか

All Rights Reserved(c)National Diet

絵本ギャラリー

絵本ギャラリーについて

挿絵本の時代 ◆ 1750 ◆ 1870 ◆ 絵本の時代 ◆ 1900 ◆ 1920 ◆ 絵本の黄金期 ◆ 1930

子どもの本 イメージの伝承

江戸絵本とジャポニズム

絵本は舞台

ユーゲントシュティルと絵本画家たち

ニグリエド

モダニズムの絵本 日常の中の芸術

アメリカの絵本 黄金期への幕開け

絵本の画像データベース
ビュイック　クルックシャンク　ロスコー　リア　デニエル
ドレ　アプトン　ドイル　コルデコット　グリーナウェイ　他

江戸の草双紙
桃太郎　金太郎　ぶんぶく茶釜
はちかつぎ姫　鼠の嫁入り　舌切り雀　他

イギリス絵本にみるジャポニズム
ニコルソン　クレイン

イギリス絵本の古典
コルデコット　クレイン　グリーナウェイ

ヨーロッパ絵本の名品
ラッカム　ロビンソン　ブルック　フレーザー　モンヴェル　ベスコフ
エレ　カスパーリ　レフラーとウルバーン　ビリービン　シャイネル　他

日本を代表する絵雑誌
武井武雄　恩田侊太郎　熊谷孝四郎　吉賀春江
鈴山滋　安井小弥太　竹久夢二　岡本帰一　他

ソ連・ドイツ・アメリカ・日本のモダニズム
レーベジェフ　リシツキー　ハルーモフ　エルモラーエワ　フロイト
シュヴィッターズとシュタイニッツ　ハイン　柳瀬正夢　山下謙一

アメリカ絵本の原風景
ハイル　レミントン　デンスロー　ホイト・スミス　ウィルコックス・スミス　他

Home

| English |

国立国会図書館国際子ども図書館

「日本シェイクスピア書誌」から「日本シェイクスピア情報」へ

（１３）
内に於てはShakespeareに関する文献及資料、殊に日本に於ける文献及び資料を蒐集いたしまして、、、
（『日本シェイクスピア協会会報』（第１号、日本シェイクスピア協会事務所、１９３０年１０月）、p.1）

（１４）
本会はシェイクスピアに関する文献資料を蒐集整理し、日本に於けるシェイクスピア研究を奨励促進するを目的とす」
（「日本シェイクスピア協会規約」（『日本シェイクスピア協会会報』第１号、日本シェイクスピア協会事務所、１９３０年１０月より）

（１５）
（M.M. “Japan.”（Campbell, Oscar Jamaes, and E.O.Qquinn, editors. *The Reader's Encyclopedia of Shakespeare.* Tokyo: Toppan, Crowell, 1966), p.398.

日本シェイクスピア情報の今後の展望

（１６）
Sharon A. Beehler, “Making Media Matter in the Shakesepare Classroom”.
William J. Gathergood, “Computers in the Secondary Classroom”.
Roy Fiannagan, “Beyond the Gee Whiz Stage: Computer Technology, the World Wide Web, and Shakespeare”.
James P. Space, “The High-Tech Classroom: Shakespeare in the Age of Multimedia, Computer Networks, and Virtual Space.”
（Salomone, Ronald E. and Davis, James E., editors. *Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*（Athens, Ohio: Ohio University Press, 1997）の目次より。）

（１７）
It is for these teachers and these students that we have prepared the present volume. *Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century* is a collection of success stories, thirty-two essays written by middle school, high school, and college teachers. In these essays, our teacher-authors record their best attempts at bringing Shakespeare and the student together in the "classroom" of today and tomorrow.
（"Preface"（*Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*）, p.xii.）

（１８）
"V. Beyond the Text" では media,film, animation に注目し、"VI. Into the Future" では"Internet Communications"にふれている。
（Beehler, Sharon A. "Making Media Matter in the Shakespeare Classroom". *Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*）, p.247.

（１９）
… the computerized text of Shakespeare's complete works includes the capability to click on a given word and have a glossary and/or commentary appear in the window.
（Beehler, Sharon A. "Making Media Matter in the Shakespeare Classroom". *Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*）, p.254.

（２０）
What is remarkeable is that Shakespeareans have managed to keep up with the speed of developing technology.
（Beehler, Sharon A. "Making Media Matter in the Shakespeare Classroom". *Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*）, p.254.

(22)
The computer text creates an environment which is useful for the next phase of our study of Shakespeare: Global Communications. If it is true that Shakespeare holds something for all cultures in all times, then our students should have a common ground to discuss issues with people of other cultures.
Flannagan, Roy. "Beyond the Gee Whiz Stage: Computer Technology the World Wide Web, and Shakespeare" (*Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*), p.269.

(23)
I have a vision of the perfect teaching tool for Shakespeare, a CD-ROM or some better means of storing data invented in the future, which will allow our imagination really to roam in serendity from text to song to dramatization to footnotes to glossary to annotated bibliography to variorum editons.
Saeger, James P. "The High-Tech Classroom" (*Teaching Shakespeare into the Twenty-First Century*), p.281.

(24)
With digital images on the web and using the right software, teachers can make images large or smaller, toggle between two or more images for comparison, or even put them side by side on the screen.
McDonald, Russ. *The Bedford Companion to Shakespeare* (Boston, New York: Bedford/St.Martin's, 2001), pp.422-426

(24A)
http://www.daphne.palomar.edu/Shakespeare/
http://www.bardweb.net
http://www.ulen.com/shakesepare
http://www.library.upenn.edu/
http://www.folger.edu/weldcome.htm
(McDonald, Russ"Appendix"には"Shakespeare Resources on the Web""Starting Points for Shakespeare Internet Searches")

(2 4 B)

McDonald, Russ. *The Bedford Companion to Shakespeare* (Boston, New York: Bedford/St.Martin's, 2001), pp.422-426

APPENDIX

Shakespeare Resources on the Web

The following sites will provide you with a wealth of material about Shakespeare. (These sites are included in the "Links" section of the Bedford Shakespeare Series site at www.bedfordstmartins.com/litreprints.)

Starting Points for Shakespeare Internet Searches

Mr. William Shakespeare and the Internet
http://daphne.palomar.edu/shakespeare/
Terry Gray at Palomar College created this annotated guide to Shakespeare resources available on the Internet. This enormous site provides Shakespeare biographies, information about Elizabethan theaters, and excellent guides to finding secondary sources on Shakespeare on the Web. Among the many links worth investigating are the "Shakespeare Timeline" and the "Shakespeare Genealogy." Gray also lists links to sites and study guides on specific plays and to scholarly articles available online.

Shakespeare Resource Center
http://www.bardweb.net
This site, designed by J. M. Pressley, provides a brief biography of Shakespeare, a short essay on Shakespeare's works, synopses of the major plays, the text of Shakespeare's will, a summary of the Elizabethan era, a commentary on Shakespeare's language, a reading list, and links to related sites.

Surfing with the Bard
http://www.ulen.com/shakespeare
Amy Ulen's "Shakespeare Classroom on the Internet" includes lesson plans for teaching Shakespeare, "Shakespeare 101" (an introduction to studying Shakespeare's plays), a study guide for *A Midsummer Night's Dream*, a photo album of BBC costumes, links to other resources, and even a page on Shakespearean references in *Star Trek*.

The Furness Shakespeare Library at the University of Pennsylvania
http://www.library.upenn.edu/etext/furness
Selected resources from the Furness Library's extensive collection of primary and secondary sources have been scanned and mounted on the Web site. Browse through digital facsimiles of texts and images and try out the interesting split-screen feature that allows you to view two documents at once for comparison.

The Folger Shakespeare Library, Washington, D.C.
http://www.folger.edu/welcome.htm
The Folger holds the world's largest collection of Shakespeare's printed works and is a major center for scholarly research. Find out about the library and its museums, upcoming public events (such as theater productions and poetry readings), and academic resources.

The Life of Shakespeare

The Shakespeare Birthplace Trust
http://www.shakespeare.org.uk
Take a look at houses associated with Shakespeare and his family and read about their histories. The "About Shakespeare" section covers his life, family history, schooling, and hometown of Stratford.

Shakespeare's School
http://homepages.nationwideisp.net/~gsa/welcome.htm
Learn more about King Edward VI School in Stratford-upon-Avon and the education of boys in Elizabethan England.

Shakespeare's Life and Times
http://www.uvic.ca/shakespeare/Library/SLT/
Michael Best's extensive Web site is a valuable resource for information on Shakespeare's life and on many aspects of the era in which Shakespeare wrote, such as the stage, society, history, politics, ideas, drama, literature, music, and art. There is also interesting coverage of Elizabethan English, including brief sound recordings of passages from *Henry IV, Part 1* and *Julius Caesar* that illustrate Elizabethan pronunciation.

The Authorship Debate

The Shakespeare Authorship Page
http://www.clark.net/pub/tross/ws/will.html
"Dedicated to the proposition that Shakespeare wrote Shakespeare," this site provides scholarly articles and essays contending that William Shakespeare of Stratford was the author of the plays.

The Shakespeare Oxford Society
http://www.shakespeare-oxford.com/
The articles on this Web site support the theory that Edward de Vere, seventeenth earl of Oxford, was the author of Shakespeare's works.

The Shakespeare Mystery by PBS Online and WGBH/Frontline
http://www.pbs.org/wgbh/pages/frontline/shakespeare/index.html
For a more impartial presentation of the authorship question, take a look at this site based on a recent *Frontline* program. Find viewer responses to the show, a reading list, updates from both sides of the argument, and recent debates.

Performances and Theaters

Shakespeare's Globe Research Database
http://www.reading.ac.uk/globe/
This database contains photos, drawings, research bulletins, articles, and reports on Shakespeare in performance. There are extensive sections on the history and archaeology of the Old Globe and the design and building of the New Globe as well as a virtual tour of the New Globe with detailed information on the reconstruction.

Shakespeare Examined through Performance
http://www.tamut.edu/english/folgerhp/folgerhp.htm
The "Shakespeare Performance Recipe Book" contains a variety of performance exercises developed by participants in a 1995–96 Folger Institute session and is a good resource for those interested in teaching and staging Shakespeare.

The Interactive Shakespeare Project, College of the Holy Cross
http://sterling.holycross.edu/departments/theatre/projects/isp/measure/teachguide/intro.html
This online study guide for *Measure for Measure* offers a glossed, annotated text of the play, a teacher's guide, essays, performance exercises, photos, video clips, and a virtual tour of Shakespeare's Globe.

Shakespeare's Texts

MIT Shakespeare Homepage
http://tech-two.mit.edu/Shakespeare/
Billing itself as "the Web's first edition of the Complete Works of William Shakespeare," this site presents the full text of Shakespeare's plays in an easy-to-navigate format.

The Works of the Bard
http://www.gh.cs.su.oz.au/~matty/Shakespeare/Shakespeare.html
This Complete Works site also features a glossary and a great Shakespeare search engine. (You can type in a particular phrase from a poem or play, and the engine will locate the source.)

Internet Shakespeare Editions
http://web.uvic.ca/shakespeare/index.html
ISE's growing site offers annotated, old-spelling transcriptions of the plays.

Cultural and Historical Sites

Shakespeare Illustrated
http://www.cc.emory.edu/ENGLISH/classes/Shakespeare_Illustrated/Shakespeare.html
Offering a cross-disciplinary approach to Shakespeare, this site examines nineteenth-century paintings and performances of Shakespeare's plays and their influence upon each other.

Royalty of England
http://www.peak.org/shrewsbury/SHOH/
This page, part of the Shrewsbury Renaissance Faire site, provides a chronological bloodline of the British monarchy, a map of the British Isles in 1595, a chart of currency values in Elizabethan England, and links to resources on Renaissance England.

A Sample of Course Web Sites

(See "Best Educational Sites" at *Mr. William Shakespeare and the Internet* for a more complete list.)

New Approaches to Renaissance Studies
http://www.english.upenn.edu/~bushnell/english-330
Rebecca Bushnell's Web site for English 330 contains a gallery of images relevant to the course.

Bardology: Introduction to Shakespeare
http://www.english.wayne.edu/~aune
Designed by Mark Aune, this Web site offers outlines of lectures on selected topics such as "Gender and Family in Early Modern England," tips on reading Shakespeare and on writing about Shakespeare, and a filmography.

Shakespeare by Individual Studies
http://www.engl.uvic.ca/Faculty/MBHomePage/ISShakespeare/Index.html
Michael Best's virtual course relies on multimedia and computer interaction — instead of lectures — to educate students about Shakespeare.

The Shakespeare Classroom
http://www.jetlink.net/~massij/shakes/
J. M. Massi's Web site contains teaching materials, answers to Shakespeare FAQs, a list of film versions of Shakespeare's plays, and links to other Shakespeare resources.

Surfing with the Bard
http://www.ulen.com/shakespeare
See page 423 for more information about this site.

Shakespeare Journals

Early Modern Literary Studies
http://purl.oclc.org/emls/emlshome.html
Available here are full-text articles and reviews from this online scholarly journal of English language and literature of the sixteenth and seventeenth centuries.

Shakespeare Magazine Online
http:http://www.shakespearemag.com/
Only selected articles from this magazine for teachers and Shakespeare enthusiasts are available online, but the "News on the Rialto" section offers current information about Shakespeare events, including performances, films, conferences, and lectures.

（２５）
あらゆるシェイクスピア劇のテキスト（現在広く使われている様々な版に加えて、フォリオ版、クォート版のファクシミリ・コピー版も含む）とその注釈や解説文と、デジタル化されたパフォーマンスの映像（いくつもの映画、テレビ番組、劇場録画など、映画は黒澤明などの翻案映画も含む）と、絵画や図像や挿絵や銅版画などのデジタル化された画像とをリンクさせることだ。これによって、コンピュ-タ・スクリーン上でシェイクスピア劇のテキストの１行をクリックすると、その一行に対応する映画やテレビ番組のパフォーマンスが何通りも見ることができ、さらにそれに関連するデジタル化された図像や絵画や挿絵などを関連資料としてコンピュータ・スクリーン上で参照できるようになる。
（有馬哲生「電子メディアによる文学研究の新展開（１）サイバースペースのシェイクスピア--デジタル化されるシェイクスピア研究」『英語青年』第142巻第10号、1997年1月）、pp.562-563.

（２６）
コンピュータで何ができるか。おそらく言語学等の領域では、コーパスの作成など、はるかに早い時期に実質的な利用を進めていたのだろう。・・・昨今のシェイクスピア研究において、まず注目され始めたのは、膨大な量のデータを瞬時に解析するコンピュータの能力で、とりわけテクスト情報に対する縦横の検索は、従来のコンコーダンスにすらできなかったこと
（加藤行夫「サイバースペースのシェイクスピア」『英語青年』別冊創刊100周年年号、1998年8月）、p.111.

（２７）
映画、テレビ、ビデオ技術を介して、あるいはマイクロフィルムとマイクロフィッシュ、インターネット、さらには新たないくつかの形式のCD-ROMによるハイパテクスト版によって、シェイクスピアのイメージと彼の作品が流布することにより、彼の地位は英国の国民詩人から世界遺産へと転じた。
（Sandra Clark（境野直樹訳）・浜名恵美「21

世紀のシェイクスピア」荒井良雄・大場建治・川崎淳之助編『シェイクスピア大事典』日本図書センター、2002年10月)、p.518.

(28)
シェイクスピアの驚くべき生産性は、インターネット上に彼が登場する頻度のおびただしさからも明らかである。彼についての数多くのサイトが作られ、それらはあらゆる意味で、シェイクスピア産業を成長させている。ホームページのなかには、シェイクスピアから受けたインスピレーションと戯れたという衝動を表明しているものがある。たとえば、「シェイクスピア風悪口サーバー」(the Shakespeare Insult server)、「ソネット・クイズ」(the Sonnet Quiz)、「シェイクスピアが欽定英訳聖書の翻刻に参加した証拠」(proof that Shakespeare translated the Bible)、「シェイクスピア/O.J.シンプソン・ページ」(the Shakespere/O.J.SimpsonPage)、「クリンゴン帝国での『空騒ぎ』」(*Much Ado About Nothing* in Klingon)など。
しかしこれらよりもずっと着実な足取りをしているのが、広義にも狭義にも教育的な意図を持ついくつかのホームページである。これらは電子的なテクノロジーが、シェイクスピア作品研究に革命的な成果をもたらす潜在力があることを、強く示唆している。
(Sandra Clark(境野直樹訳)・浜名恵美「21世紀のシェイクスピア」(荒井良雄・大場建治・川崎淳之助編『シェイクスピア大事典』日本図書センター、2002年10月)、p.522.

(29)
「灰色文献」
田中功『情報管理の基礎知識』(海文堂、2002年4月)、p.21.

(30A)
インターネットがまだ比較的に規制されていない世界的な規模の市場にアクセス可能であること、それぞれのサイトが統一のとれた構成に欠けること、アドレスが頻繁に変更されること、行きあたりばったりで任意の規制しか受けていなし、既得的を必ずしも明らかにしていないこ

とはインターネットが提供してくれる情報の質や性格が、実は多様であるということを意味しているのである。
（田中功『情報管理の基礎知識』（海文堂、2002年4月）、p.21.

日本シェイクスピア協会

日本シェイクスピア協会は
日本におけるシェイクスピア研究の
促進を目的とする非営利の学術団体です。
学術出版物の刊行や学会、講演会、研究会など
の主催を通じて国内外の研究者の交流に努めています

協会概要
事務局
行事
学会
Shakespeare News
Shakespeare Studies
記念出版
活動履歴
WSBO
リンク
賛助会員一覧

入会案内

会員ページ

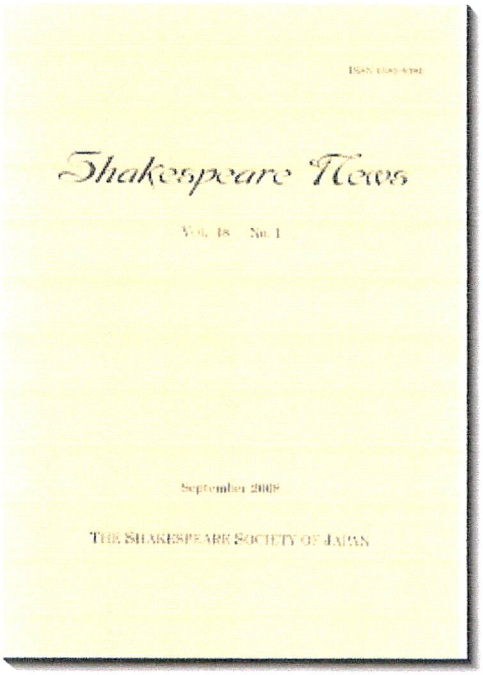
サイト内検索

›› English ››

新着情報

- 韓国シェイクスピア協会主催 'Shakespeare in Asia' のお知らせ（投稿規程）
- *Shakespeare News* (Vol.48 No.1) が刊行されました。(9月30日)
- 9th World Shakespeare Congress のお知らせ（投稿規程最新版、2008年9月）
- *Shakespeare Studies 45* が出版されました。
- 日本シェイクスピア協会編、『新編 シェイクスピア案内』(研究社)が刊行されました。
- *Shakespeare News* への投稿募集中
- *Shakespeare Studies* への投稿募集中

会員向け情報更新!! (8/27)



過去の新着情報の一部にはこちらよりアクセスいただけます。

Last updated: 2008.11.03

© The Shakespeare Society of Japan

このホームページの内容を許可なく転載することは禁止されています。
このホームページは、日本シェイクスピア協会の活動を広く内外にお知らせするためのものです。
シェイクスピアの研究や上演に関する情報を直接に提供する場ではありませんので、その種のお問い合わせはご遠慮下さい。

このサイトのコンテンツは、Microsoft® Internet Explorer 7 以降、Mozilla Firefox® 2 以降、Apple Safari® 3 以降に最適化しています。

協会概要
事務局
行事
学会
Shakespeare News
Shakespeare Studies
記念出版
活動履歴
WSBO
リンク
賛助会員一覧
入会案内
会員ページ
サイト内検索
›› English ››

リンク

- The International Shakespeare Association
- Shakespeare and Renaissance sites
- The Shakespeare Birthplace Trust
- The On-Line Books Page
- Shakespeare's First Folio: Facsimiles / Texts
- Shakespeare in Japan

  by Dr Daniel Gallimore, Japan Women's University
- Die Deutsche Shakespeare-Gesellschaft
- World Shakespeare Bibliography Online

βαχκ

© The Shakespeare Society of Japan

このホームページの内容を許可なく転載することは禁止されています。
このホームページは、日本シェイクスピア協会の活動を広く内外にお知らせするためのものです。
シェイクスピアの研究や上演に関する情報を直接に提供する場ではありませんので、その種のお問い合わせはご遠慮下さい。

SHAKESPEARE in JAPAN

CHRONOLOGY ~ from the 17th century to the present

SHEIKUSUPIA ~ titles of Shakespeare's plays in Japanese script

SHOKESPEARE ~ brief comments on each of the plays by early 20th century translator Tsubouchi Shoyo

TRANSLATION I ~ excerpts from essay by female translator Matsuoka Kazuko

TRANSLATION II ~ thoughts on translating *Romeo and Juliet* by Kawai Shoichiro

SHAKESPEARE PERFORMANCE ~ overview by Asahi drama critic Senda Akihiko

OKINAWAN DREAM ~ essay on Okinawa-style Shakespeare by Suzuki Masae

SHAKESPEARE DIARY ~ reviews of recent productions

FURTHER READING ~ bibliography of translations and criticism

LINKS ~ other sites related to 'Shakespeare in Japan'

Daniel Gallimore

Japan Women's University

Site originally launched 4th January, 1999. Site relaunched 19th November, 2004. Latest update 27th October, 2008.

World Shakespeare Bibliography Online

「World Shakespeare Bibliography Online」のご紹介とお知らせ

協会は2007年度より、世界のシェイクスピア研究をほぼ網羅的に収録したオンラインデータベース「World Shakespeare Bibliography Online (WSBO)」に協力し、データ提供を一部仲介することになりました。James L. Harner教授(Texas A&M大学)が編集主幹を務めるWSBO (http://www.worldshakesbib.org/index.html)は、*Shakespeare Quarterly,* Folger Shakespeare Library, Johns Hopkins University Press などと連携し、1962年から現在までに刊行された単行本や論文、書評、劇評、上演記録などを幅広く収録しています。WSBOは、従来*SQ*の第5巻で公刊されてきたものを含め約11万件を越えるデータの中から研究情報が検索可能で、世界のシェイクスピア研究の動向を知る上で必須のツールとして、今後は日本における研究成果がいっそう多く収録されることが期待されます。また研究の細分化が進む中で、日本人研究者同士が互いの研究を知り合うためにも今後有効と思われます(個人によるsubscription feeは現在68ドルです。申し込み方法や論文のテーマの種別や掲載範囲等の詳細については上記ホームページをご覧下さい)。

これまで日本人による研究成果は、故小津次郎元会長の時代から数名のcorrespondentsの方々により幅広い情報が提供されてきました。しかし、そのあまりに膨大な数ゆえに全体を網羅することはしばしば困難で、現在は「単行本」と「上演」に関する情報が武蔵野学院大学佐々木隆教授から提供されています。協会はここに「論文」を加えることとし、会員のみなさまからの情報を仲介することで、データベースとしてのWSBOにいっそう厚みを持たせたいと考えています。

協会によるWSBOへの情報提供は、2007年以降に発表された日本語による研究論文に限定し、書評、劇評は含みません。英米の学術誌に掲載された論文はWSBOが直接情報を入手して処理し、日本で発表された英語論文については著者ご自身が論文をWSBOにご送付頂くことで情報提供が可能です。また情報の仲介は年4回行われ、会員の皆様からの自己申告制で行います。情報提供をご希望の方は、以下の要領でデータを作成し、協会専用のアドレスまで電子メールでお送り下さい(提出用の書式が協会ホームページに掲載されておりますので、そちらからダウンロードしてお使い下さい)。

日本語論文のデータは、1) ローマ字による作者名、2) ローマ字による論文タイトルに続けて、英訳されたタイトルをsquare bracketsに入れる、3) 英語またはローマ字による雑誌名、号数、発行年、ページ番号、4) 2～4センテンスの英語によるサマリー、の各項目を作成して、**メールにて** 事務局までワードの添付ファイルでお送り下さい。なお英訳タイトルと英語サマリーについては、必ずネイティブチェックを受けてからご送付下さい。また日本で刊行された英語論文の送付先は、下記の通りです。

Professor James L. Harner
Editor, World Shakespeare Bibliography
Department of English
Texas A&M University
College Station, TX 77843-4227
email: j-harner@tamu.edu

ダウンロード用書式

※ 下記の記入項目と記入例をご参照の上、番号順にご記入下さい。
※ 提出用書式は、ここからダウンロードできます。

1. Name of Author(s) (ex. Kyokai, Taro)
2. Title of Article (ex. "Sheikusupia no Gengo to Minshu Bunka [Shakespeare's Language and Popular Culture]")
3. Title of Journal, volume number (and issue number), date, inclusive page numbers (ex. *Bulletin of Kyokai*

University 47, no.3 (2007): 25-35)
[ページナンバーの書き方の注意 (Chicago 8.67):

- 100 or multiple of 100: use all digits--100-104; 600-613; 1100-1123
- 101 through 109 (in multiples of 100): use changed part only--101-2; 301-11; 1002-3
- 110 through 199 (in multiples of 100): use two digits or more as needed--321-25; 11564-66; 13792-803 But, if numbers are four digits long and three digits change, use all four digits--1496-1504; 2782-2816 109-10 199-200 1579-90]

4. Annotation [Provide a 2-4 sentence summary that includes the thesis, essential focus, and conclusions; indicate the plays or poems that are given major attention. For articles that are only partly devoted to Shakespeare, focus in the annotation on the discussion of Shakespeare. In annotations, spell out one through nine; use numerals for 10 and above] (ex. Studies Shakespeare's use of dramatic language and its appeal to popular culture. Discusses the speeches in *Titus*, *Hamlet*, and *Lear*.)
5. Language (ex. Japanese)

記入した情報は、協会専用の **メール・アドレス** まで添付ファイルでお送り下さい。

βαχκ

© The Shakespeare Society of Japan

このホームページの内容を許可なく転載することは禁止されています。
このホームページは、日本シェイクスピア協会の活動を広く内外にお知らせするためのものです。
シェイクスピアの研究や上演に関する情報を直接に提供する場ではありませんので、その種のお問い合わせはご遠慮下さい。

（３１）
「書誌の書誌」

しょしのしょし　**書誌の書誌**　(bibliography of bibliographies)

刊行されている書誌・索引・抄録などの二次資料（書誌類）だけを選んで，その書誌的事項の記述を一定の体系順に排列した図書。書目の書目ともいい，二次資料へ案内している資料なので，三次資料と呼ぶこともある。ベスターマン編 *A World Bibliography of Bibliographies* や，天野敬太郎編『日本書誌の書誌』，深井人詩編『主題書誌索引』『書誌年鑑』がその代表例である。

『図書館用語集　三訂版』、p.148.

電子図書館と日本シェイクスピア書誌に関する年表

1903年　上田敏「沙翁書史」(『学鐙』第7年臨時号、丸善)

1905年　偶来生「沙翁書史」(『学鐙』第9年10号、丸善)

1927年　坪内逍遙「沙翁劇に関する雑筆三篇」(『逍遙選集』第5巻、春陽堂)

1930年　日本シェイクスピア協会設立(第1次)

1931年　山口武美・市河三喜共編「日本シェイクスピア書誌」(『英語研究』第23巻第12号～第24巻第10号,～1932年)

1940年　Toyoda, Minoru. *Shakespeare in Japan* (Iwanami Shoten)

1949年　クロード・シャノン、一般通信情報理論を発表

1950年　山本二郎編「シェークスピヤ書誌」/加藤長治編「シェークスピヤ劇上演年表」(日本演劇協会編『シェイクスピヤ研究』中央公論社)

1953年　日本図書館学会設立(1998年に名称変更)

1967年　Ohio College Library Center発足。(現在のOnline Computer Library Center)世界最大の書誌ユーティリティ。

1981年　国立国会図書館、和図書データベース作成に着手。JAPAN/MARCは頒布開始。

1983年　*The Electronic Library*創刊(米国)

1984年　為房裕子,中島厚子編『日本におけるシェイクスピア書誌』(女子聖学院短期大学)
＊研究書誌、翻訳書誌、研究論文等を収載。

1986年　文部省学術情報センター(NACSIS)発足。

1988年　国立国会図書館、J-BISC刊行。(JAPAN/MARCのCD-ROM版。制作発売は日本図書館協会)

1988年　佐々木隆編『日本のシェイクスピ

ア』（エルピス）
＊研究書誌、翻訳書誌、上演年表等を収載。

1989年　オックスフォード版シェイクスピア全集（Electronic edition. FD版）

1989年　電子図書館研究会設立。

1990年　佐々木隆編『日本シェイクスピア総覧』エルピス
＊研究書誌、翻訳書誌、上演年表等を収載。

1991年　ヨーロッパ原子核共同研究所（CERN）が World Wide Web を開発。

1992年　日本で情報文化学会設立。

1992年　文部省学術情報センターがインターネット・バックボーン SINET の運用を開始。

1992年　日本で商用ネットワークサービスが開始される。

1993年　郵政省による電子図書館開発支援開始

1994年　国立国会図書館、NDL CD-ROM Line 頒布開始。（雑誌記事索引カレント版）

1995年　加藤行夫・境野直樹「インターネットと文学研究」（『英語青年』第141巻第3号）

1995年　岡田毅「インターネットを利用した英語学研究」（『英語青年』第141巻第5号）

1995年　佐々木隆編『日本シェイクスピア総覧2』（エルピス）
＊研究書誌、翻訳書誌、上演年表等を収載。

1996年　国立国会図書館ホームページを公開。

1996年　学術審議会「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について（建議）」

1996年　日本シェイクスピア学会
学会セミナー「コンピュータとシェイクスピア研究」（境野直樹＝コーディネーター）

1996年　Salomone, Ronald E., and Davis, James E., editors. *Teaching*

Shakespeare into the Twenty-First Century（Ohio University Press）
＊マルチメディアを利用したシェイクスピア研究に関する論文を所収。

1997年　文部省学術情報センター（NACSIS）、登録利用者に本格サービスを提供開始。（電子図書館サービス NACSIS-Electronic Library Service）

1997年　国立国会図書館、和図書オンライン閲覧目録（OPAC）提供開始。

1997年　有馬哲生「電子メディアによる文学研究の新展開（1）サイバースペースのシェイクスピア――デジタル化されるシェイクスピア研究」（『英語青年』第142巻第10号）

1997年　石木利明「英米文学研究のためのインターネット」（『英語青年』第142巻第10号）

1998年　日本図書館情報学会（旧・日本図書館学会の名称変更）

1998年　加藤行夫「サイバースペースのシェイクスピア」（『英語青年』第144巻第13号）

1998年　国立国会図書館「国立国会図書館電子図書館構想」発表

1998年　高橋康也監修／佐々木隆編『シェイクスピア研究資料集成』（別巻1・2）（日本図書センター）
＊研究書誌、翻訳書誌、上演年表等を収載。）

1999年　日本シェイクスピア協会ホームページ正式公開。

1999年　境野直樹「学会とネットワーク」（*Shakespeare News*, Vol.XXXIX No.2）

1999年　国立国会図書館、和図書200万件、洋図書20万件の書誌情報を提供するWeb-OPACをインターネット上で公開。

2000年　e-Japan構想。高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT基本法）

2000年　国立国会図書館、CD-ROM等のパッケー

ジ電子出版物の正式納本開始。

2000年　国立情報学研究所（NII）設立。

2001年　e-Japan重点計画――高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する重点計画

2002年　『研究社シェイクスピア辞典』（CD-ROM）（研究社）

2002年　Clark, Sandora（境野直樹訳）・浜名恵美「マルチメディアとシェイクスピアとグローバル化」（荒井良雄・大場建治・川崎淳之助編『シェイクスピア大事典』（日本図書センター）

2001年　国立国会図書館、雑誌記事索引をNDL-OPACで全件提供開始。

2002年　国立国会図書館、一般登録利用者のインターネット経由遠隔利用サービス開始。

2003年『シェイクスピア大全』（CD-ROM）（新潮社）

＊180本の翻訳とThe New Arden版の原文が収録されている。

2005年『英語青年』（特集：インターネット10年）（第150巻第10号）

2005年『図書館雑誌』（特集：Webによる図書館サービスの可能性を探る）（第99巻第2号）

2005年『日本シェイクスピア総覧　天保11年――平成14年』（CD-ROM）（エルピス）

＊研究書誌、翻訳書誌、上演年表等を収載。

2005年　情報学サロン

2007年　c-Japanシンポジウム――知流社会の羅針盤

2008年　曽根原登・東倉洋一・小泉成史『c-Japan宣言　情報を糧として日本の未来ビジョン』（丸善ライブラリー）丸善